

# 年間活動報告

【2018年度】

・本報告は、『千總文化研究所 年報』創刊号（2020年1月）に掲載した内容の内、以下の概要を抜粋したものである。

当研究所が主催した研究会および講演会等  
展覧会への出陳協力

当研究所の所員が実施した、講演および発表などの教育・研究活動

- ・講演会および研究会の登壇者の所属、役職は、開催当時のものを表記する。
- ・掲載画像の無断転載を禁止する。



## 第2回「日本の染色—その色と技—」

日時：2018年4月25日（水）午後4時～午後5時30分

於：千總本社ビル

——  
パネルディスカッション

パネリスト

吉岡幸雄 染司よしおか

礮本延 株式会社千總 専務取締役

水村裕宣 株式会社千總 製作本部本部長

### [概要]

同日開催された第3回特別鑑賞会・講演会「千總友禅—束熨斗文様振袖の復元製作をめぐって—」の連動企画としてフリーディスカッション形式で実施しました。講演会講師の吉岡幸雄氏に加え、復元を手がけた千總の製作本部がパネリストとして参加し、天然染料の特色や、復元において製作現場で課題となった事柄や現代の技術との違い、挿し友禅における濃度調整の難しさ等について語りました。修復、染織、ファッションの研究者、染色作家、美術史家、服飾文化、文化人類学者ら21名が参加し、江戸時代からの退色を考慮した上での色をどのように考えるか、束熨斗文様振袖の文化的・歴史的背景について、さまざまな意見が出されました。友禅という技術について、また復元という作業について、多角的な視点からの議論が展開されました。

千總文化研究所の活動 [研究活動／研究会]

## 第3回「京都の商い—千切屋一門と三条の町—」

Third Seminar: Business in Kyoto—Chikiriya Clan and the Town of Sanjo

日時：2018年10月23日（火）午後4時～午後5時30分

於：千總本社ビル

発表

### 「江戸時代の千切屋と地域文化」

京都府京都文化博物館 学芸員 西山剛

資料編

P.70～73

#### [概要]

同日開催された第4回特別鑑賞会・講演会「千總と東本願寺御装束師の姿」と連動する企画として開催されました。装束を調進する商人、有職文化の担い手としての千總の姿から、京の町との関係性へ切り口を変え、議論を展開しました。

発表者の西山剛氏は、2015年に京都文化博物館と千總が共催した「千總460年の歴史 京都老舗の文化史」展（第1会場：京都府京都文化博物館、第2会場：千總ギャラリー）を担当され、展覧会に伴い2014年から2015年にかけて千總文書の一部約500点の基礎調査をされました。今回はその成果と共に、千總を含む千切屋一門の商人としての歴史、地域社会の中での位置づけ、そしてどのように地域文化を担っていったのかについて、ご発表いただきました。

講演会でお話しいただいた山口昭彦氏（東本願寺内事部書記）をはじめ、装束、宗教学、文化史の専門家が集い、さまざまな側面・分野を内包する京都の商人、京都の地域文化について、意見を交わしました。

千總コレクションと共に、日本文化の未来を考える 第4回

## 「千總と東本願寺—御装束師の姿—」

日時：2018年10月23日（火）午後2時～3時30分

於：千總本社ビル5階ホール

### [概要]

「御装束師」として有職文化を担ってきた千總の商いと歴史を紐解きました。およそ460年前、千總の始祖である千切屋与三右衛門は法衣商として京都の三条室町で商いを始めました。当時、近隣には多数の寺院があり、千切屋一門は三条通りに軒を連ね法衣装束・金襴巻物を納めて繁栄しました。中でも千總は東本願寺との繋がりが強く、御用商人として僧侶の装束である袈裟や御堂を莊嚴する打敷を数多く調進してきた歴史があります。

東本願寺より山口昭彦氏を迎え、京都の文化に根ざす装束の美、公家のしきたりである有職についてのご講演と共に、東本願寺での最高礼装である法服七條袈裟の着装の実演をご披露いただきました。また特別なゲストとして衣紋道山科家の第30代山科言親様をお招きし、講演会の中で有職についてご発言いただきました。鑑賞会では、山口昭彦氏のご助力のもと東本願寺をはじめ真宗大谷派の寺院から拝借した袍裳や袈裟、御茵や檜扇などを1点ずつ解説いただきました。千總コレクションからは、装束の見本帖や打敷と袈裟の図案を出陳しました。

### [講師]

山口昭彦（やまぐちあきひこ）

1961年福井県生まれ。大谷大学大学院文学研究科修士課程仏教文化専攻修了。現在、東本願寺内事部書記。真宗大谷派圓正寺住職。

共著 京法衣事業協同組合設立10周年記念誌『京法衣商史』

千總コレクションと共に、日本文化の未来を考える 第3回

## 「千總友禅一束熨斗文様振袖の復元製作をめぐって」

日時：2018年4月25日(水) 午後1時30分～午後3時

於：千總本社ビル5階ホール

### [概要]

千總が代表を務める友禅史会所蔵の「束熨斗文様振袖」を題材に、千總友禅の技術と日本古来の染色に焦点を当てました。千總は、2015年から2017年にかけて、メルコリゾーツ&エンターテインメントによる全国の着物産地の職人が最高級の着物を製作し公開する「着物×きもの×KIMONO プロジェクト」の一環として、「束熨斗文様振袖」の復元製作(監修:河上繁樹教授(関西学院大学))を手がけました。その細やかな文様表現と雅な色彩で江戸時代の友禅染の最高峰として重要文化財に指定されている〈束熨斗文様振袖〉ですが、現代とは絹や染料といった素材も、技術も異なる江戸時代の衣裳の復元は、各工程でさまざまな課題と向き合うものでした。その中で、染色においては「染司よしおか」の協力を得て、すべて天然染料による再現を目指しました。5代染司よしおか当主の吉岡幸雄氏を迎え、製作過程を振り返りながら、日本の色の歴史と魅力、日本人が大切にしてきた繊細な美意識について伺いました。講演会とともに、京都国立博物館に寄託されている〈束熨斗文様振袖〉と復元品の2点を並べての鑑賞会も実施しました。また〈束熨斗文様振袖〉と分かれていた部分の裂地をご所蔵の野口株式会社様に特別にご持参頂きました。

### [講師]

吉岡幸雄(よしおかさちお)

1946年京都生まれ、染色家。1971年早稲田大学第一文学部卒業後、1973年に美術工芸書出版社の紫紅社を設立。1987年生家の「染司よしおか」5代目を継承。植物染の第一人者として薬師寺、東大寺などの文化財の復元をはじめ、英国V&A博物館からの依頼で永久保存用「植物染めのシルク」の制作等を手掛ける。著書は『日本の色辞典』『王朝のかさね色辞典』(紫紅社)、『千年の色 古き日本の美しさ』(PHP研究所)、『日本の色を染める』(岩波新書)、『色紀行 日本の美しい風景』(清流出版)など多数。

千總文化研究所の活動 [研究活動／無形文化財調査]

# 桶出絞り技術継承プロジェクト

A study of *okedashi shibori* technique

期間：2017年12月～2018年3月、2018年7月～2019年3月

連携：株式会社千總

助成：経済産業省 近畿経済産業局 2017、2018年度「地域中核企業創出・支援事業」

## 〔概要〕

桶出絞りは、大胆な文様を多色に染め分けると共に絞り特有の柔らかな風合いを表現できる千總の着物にとって欠かすことのできない技術です。しかしながら、様々な伝統技術と同様に、技術の習得は師を見て真似ることが前提としてあり、技術の工程や重要なポイントは、言語化、可視化はされておらず、技術者の高齢化・人口減が進行しているだけでなく、桶や釘など道具の生産者を失っています。

2017年度は、技術製作工程を調査、記録、ヒアリング等を実施し、一つ一つの工程と、技術者や千總の製作担当者が無意識のうちに多用している言葉を記録し、技術を継承していく上で「キモ」となる作業を検証しました。

2018年度は、桶の材質・形状・圧力等を計測し、代替道具開発の糸口を探りました。また、フランスで活躍するデザイナー Mathilde Bregeon 氏との協業でスカーフを製作し、日本の古典文様だけではなくコンTEMPORARYなデザインまで再現できる、技術の可能性を再確認しました。

成果発表として2019年の3月にパリで展示会を実施しました。テキスタイルのバイヤー、オートクチュールのメゾンの職人、美術館関係者、ファッション専門学校の教授や学生をはじめ、3日間の期間中に350名が来場しました。技術の工程ごとにどれくらいの時間がかかるのか、どのような染料や素材を使っているか、など多くの質問が投げかけられ、関心の高さがうかがえました。伝統技術の継承はフランスにおいても大きな課題となっており、日本文化を取り巻く社会的・経済的側面にまで関心が寄せられました。



パリ展示会風景 於：アトリエ・ブランマン

## 講演・レクチャー・寄稿

「うた・ものがたりのデザインの背景」

2017年10月3日(火) 午後12:50～午後2:20

京都工芸繊維大学デザインプロジェクトB 課題提供

於：京都工芸繊維大学

---

「京友禅のわざー伝統と創造への挑戦ー」

2018年4月8日(日) 午後2:00～午後4:30

多聞会 アートと考古学シリーズII 無のかたち -Shape of the Shapeless-

於：建仁寺塔頭 両足院

---

「Chiso Yuzen -Reproducing a Furisode with Noshi Bundle Design」

2018年7月12日(木) 午前9:00～午後5:00

セインズベリー日本藝術研究所 インターナショナルシンポジウム

Fashioning Colors: New Perspectives on Japanese Woodblock Prints

於：セインズベリー日本藝術研究所

---

「海を渡った美術染織品」

2018年11月6日(火) 午後1:00～午後5:00

農林水産省 シルク・サミット2018～「明治150年」記念シンポジウム～

パネルディスカッション「海外から見た日本文化の魅力～農林水産物の輸出促進に生かす」

於：星陵会館

---

「千總の型友禅染め」

2019年4月16日(火) 午前9:30～午後1:00

公益社団法人日本工芸会 平成31年度重要無形文化財「友禅」伝承者養成研修会

於：千總本社ビル

---

『ふでばこ』（株式会社白鳳堂発行）

連載「京の美学 日本の心」37号（2018年5月30日）、36号（2017年11月25日）、35号（2017年5月25日）

## 展覧会協力

### 1. 泉屋博古館・泉屋博古館分館

「木鳥櫻谷—近代動物画の冒険」

2017年10月28日(土)～12月3日(日)・2018年2月24日(土)～4月8日(日)

木鳥櫻谷〈猛鷲図〉

### 2. 京都国立近代美術館

「明治150年展 明治の日本画と工芸」

2018年3月20日(火)～5月20日(日)

岸竹堂〈縮緬地孔雀に花文様友禪染裂〉〈柿に猿図〉〈棕櫚に雀図〉

今尾景年〈縮緬地菊牡丹蓮に梅文様友禪染裂〉〈梅月図〉〈狗児図〉『景年花鳥画譜』

岸竹堂ほか〈模写 沈南蘋「花鳥動物図」〉

久保田米遷〈縮緬地大津絵文様型友禪染裂〉

幸野楳嶺〈縮緬地御簾に菊文様型友禪染裂〉

### 3. ホテルオークラ東京アスコットホール

「チャリティイベント 第24回『秘蔵の名品アートコレクション展』」

2018年7月30日(月)～8月23日(木)

岸竹堂〈猛虎図屏風〉、〈月下猫児図〉

### 4. 笠岡市立竹喬美術館・和歌山県立近代美術館・新潟県立万代島美術館

「創立100周年記念 国画創作協会の全貌」

2018年9月14日(金)～10月21日(日)・11月3日(土)～12月16日(日)・2019年1月4日(月)～2月17日(日)

榊原紫峰〈蓮図〉

### 5. 福井市立郷土歴史博物館

「皇室と越前松平家の名宝—明治美術のきらめき—」

2018年9月22日(土)～11月4日(日)

岸竹堂〈大津唐崎図屏風〉

### 6. 一宮市三岸節子記念美術館

「絵を描く糸 刺繍美術展—江戸時代の着物から現代染織まで—」

2018年10月6日(土)～11月25日(土)

〈御殿文様打掛〉〈謡曲文様振袖〉〈初着雛形〉〈翁格子に地紙文様型友禪染裂〉〈錦絵風俗画文様型友禪染裂〉

〈波に雲龍文様型友禪染裂〉〈座敷尽くし文様型友禪染裂〉

### 7. 宇和島市立伊達博物館

「大名家と婚礼道具—資料から伝わる花嫁への想い—」

2018年10月27日(土)～11月25日(日)

〈牡丹藤花東青海波文様小袖〉、〈幔幕紅葉文様小袖〉、『当世染様千代のひいなかた』

### 8. 京都経済センター2F 京都産業会館ホール

「The KIMONO Styled & Re-Styled ～ファッションとしてのきもの1300年」

2019年3月16日(土)～29日(金)

〈若松文様打掛〉、〈波に鶴文様振袖〉

### 9. 西宮市大谷記念美術館

「四条派への道 呉春を中心として」

2018年4月6日(土)～5月12日(日)

山口素絢〈やすらい祭図屏風〉



Second Seminar:

## Traditional Japanese Dyeing—Colors and Techniques

Date and Time: Wednesday, April 25, 2018, 4:00 pm to 5:30 pm

Location: Chiso Head Office Building

Panelists:

Sachio Yoshioka, Somenotsukasa Yoshioka (Textile Dyer Yoshioka)

En Isomoto, Managing Director, Chiso Co., Ltd.

Hironobu Mizumura, Production Department Director, Chiso Co., Ltd.

### Summary

The second seminar was held in association with the Third Special Exhibition and Lecture on “Chiso Yuzen—Reproducing a *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design*,” which was held on the same day. The seminar was held as a free discussion session, attended by panelists including Sachio Yoshioka, who gave the lecture, and the Director of the Production Department of Chiso, who was engaged in the reproduction project. The discussion topics ranged from the characteristics of natural dyes, the challenges encountered during the reproduction project, the technical differences between the reproduced kimono and contemporary kimonos, and to the difficulty in adjusting the color density in the coloring process. The seminar was also attended by 21 specialists and professionals including researchers in reproduction, textiles, and fashion, dyeing artists, art historians, fashion and culture experts, and cultural anthropologists, who shared various views on topics including how to reproduce colors reflecting the discoloration over years since the Edo period, and cultural and historical backgrounds of the *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design*. The yuzen dyeing techniques and the reproduction work were discussed from many different angles.

Third Seminar:

## Business in Kyoto—Chikiriya Clan and the Town of Sanjo

Date and Time: Tuesday, October 23, 2018, 4:00 pm to 5:30 pm

Location: Chiso Head Office Building

Presentation:

Chikiriya in the Edo Period and Local Culture  
Tsuyoshi Nishiyama, Curator at the Museum of Kyoto

### Summary

The third seminar was held in association with the Fourth Special Exhibition and Lecture on “Chiso and Higashi Honganji Temple—Being a Vestment Purveyor,” which was held on the same day. The seminar aimed at discussing Chiso as a vestment trader supporting the culture of ancient imperial court practices, and then providing a different perspective on the company by exploring its relations with the local community of Kyoto.

The speaker, Tsuyoshi Nishiyama, curated the exhibition “A History of Chiso: 460 Years of Tradition and Innovation” held in 2015 at two venues (the Museum of Kyoto and the Chiso Gallery), which was co-organized by the Museum of Kyoto and Chiso. In preparation for the exhibition, from 2014 to 2015, he examined some 500 items from Chiso’s archives as basic research. In his presentation, Nishiyama shared the research results and talked about the business history of the Chikiriya clan including Chiso, the company’s relationship with the local community, and how the company acquired a role in the local culture.

At the seminar, Akihiko Yamaguchi (secretary at the internal affairs department, Higashi Honganji Temple), who gave the lecture, and other experts in vestments, religion, and cultural history shared their views on the multifaceted role of traders in Kyoto as well as the local culture of Kyoto.

## Chiso Yuzen

### —Reproducing the *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design*

Date and Time: Wednesday, April 25, 2018, 1:30 pm to 3:00 pm

Location: Chiso Head Office Building, Hall (5th floor)

#### Summary

Under the theme of the *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design*, which belongs to Yuzenshi-kai headed by Chiso, the lecture focused on the techniques of Chiso Yuzen and old Japanese dyeing. From 2015 to 2017, Chiso carried out a project aiming to reproduce the *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design* as a part of the “着物×きもの×KIMONO” project, which was funded by Melco Resorts & Entertainment. The project invited artisans from kimono-producing districts across the country to produce and exhibit their best kimonos.

The *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design* is a premier Edo-period, yuzen-dyed textile designated as an Important Cultural Property of Japan. In reproducing a kimono from the Edo period, where materials, such as silk or dyes, and techniques are different from modern times, the project faced a number of challenges in every process. For dyeing the kimono using only natural dyes, Somenotsukasa Yoshioka joined the project to provide coloring materials.

We invited Sachio Yoshioka, the fifth-generation head of Somenotsukasa Yoshioka, to explain the reproduction process and lecture on the history and charm of Japanese colors and the delicate sense of beauty that the Japanese have cherished. The event also exhibited the *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design* and its replica side by side, which are now deposited in the Kyoto National Museum. We also invited Noguchi Co., Ltd. to present their proprietary *Furisode Kimono with Noshi Bundle Design*, which was presented as a separated piece of the original *Furisode kimono*.

Lecturer:

#### Sachio Yoshioka

Sachio Yoshioka is a textile dyer born in Kyoto in 1946. He graduated from the Schools of Letters, Arts and Sciences I, Waseda University in 1971, and established Art Books Shikosha Publishing Co., Ltd. in 1973. He succeeded to his family's business Somenotsukasa Yoshioka as a fifth-generation head in 1987. As a leading expert in plant-based dyeing, he has restored cultural properties of Yakushiji Temple and Todaiji Temple, and produced plant-based dyed silk textiles to be preserved in perpetuity at the request of the Victoria and Albert Museum, England. He has authored a number of books including *Nihon no iro jiten* (Shikosha), *Ocho no kasane iro jiten* (Shikosha), *Sennen no iro: Furuki Nihon no utsukushisa* (PHP Institute), *Nihon no iro o someru* (Iwanami Shinsho), and *Iro kiko: Nihon no utsukushii fukei* (Seiryu Publishing).

## Chiso and Higashi Honganji Temple—Being a Vestment Purveyor

Date and Time: Tuesday, October 23, 2018, 2:00 pm to 3:30 pm

Location: Chiso Head Office Building, Hall (5th floor)

### Summary

The event aimed to unveil the history and the business of Chiso, which has supported the culture of ancient imperial court practices as a purveyor of vestments. About 460 years ago, Chikiriya Yosoemon (Yozaemon), the founder of Chiso, started his business as a religious vestment trader in Sanjo Muromachi, Kyoto. With many neighboring temples in those times, the Chikiriya clan, nestling up along Sanjo Dori, prospered in business by delivering religious vestments and gold brocade scrolls to the temples. Having a strong relationship with Higashi Honganji Temple, in particular, Chiso delivered, to the priests there, many costumes for them called *kesa* and cloths called *uchishiki* for decorating the altars in the temple.

We invited Akihiko Yamaguchi from Higashi Honganji Temple to deliver a lecture on the beauty of those vestments tied to Kyoto's culture, and the culture of ancient imperial court practices. He also demonstrated how to wear a *shichijo kesa*, a supreme ceremonial vestment at Higashi Honganji Temple. The special guests were Tokichika Yamashina, the 30th heir of the Yamashina family dedicated to the *emon-do* (the art of dressing of traditional attire), who was invited to deliver a talk on the culture of ancient imperial court practices from his own perspectives.

At the exhibition, Akihiko Yamaguchi explained one by one about a hohmo (supreme Buddhist robe), *kesa*, *oshitone* (floor mat), and *hiogi* (wooden fan) collected from Higashi Honganji Temple and other temples of the Shinshu Otaniha branch of Shin Buddhism. Chiso exhibited a sample book of vestments and the designs of *uchishiki* and *kesa*, which were brought from the Chiso collection.

Lecturer:

### Akihiko Yamaguchi

Akihiko Yamaguchi was born in Fukui in 1961, and completed the master's course in Buddhist Culture at the Graduate School of Letters, Otani University. Currently, he serves as the secretary at the internal affairs department, Higashi Honganji Temple, and as the chief priest at Enshoji Temple (Shinshu Otaniha branch). He is also a co-author of *Kyo hoe sho shi* (History of religious vestment merchants in Kyoto), which is a book published to mark the 10th anniversary of the Kyo Hoe Business Cooperative.